

カルメル

霊性センターニュース



復活のキリスト像(宇治カルメル修道院)

2019年4月

352号



## 目次

目次	1
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	2 4
カルメル会の企画案内	2 5
東京	2 6
名古屋	3 1
京都	3 2
北陸	3 4
諸所の企画案内	3 5
郵送お申込みのご案内	4 4
編集後記	4 5



台風で倒木した中庭の桜(宇治カルメル修道院)

# 心の泉



聖母子像とスモモの花(宇治カルメル修道院)



## 第三卷

### 第十九章 侮辱を耐え忍ぶことと、まことの忍耐

#### 3 すべて神のみ手から

自分が考える程度の患難を、自分の好んでいる人を選んで耐え忍ぶ人は、ほんとうに忍耐のある人ではない。真に忍耐のある人は、誰から試みられているか、目上からか、同僚からか、目下からか、徳のある人からか、罪深いならず者からか、そのようなことを考えず、誰から来るものかを差別せず、何度、どれほど受けても、すべてを喜んで、感謝しつつ神のみ手から受け、自分が大きな利益を得たと考えるものだ。神のみ前にあっては、神のために忍んだどんな小さなことも報いを受けるのである。

#### 4 闘いなしに栄冠はない

勝利を得たいなら、いつも闘いの準備を整えているように心がけなさい。闘いなしには、忍耐の栄冠を受けることはできない。もしあなたが苦しみを避けるなら、その報いも拒むわけである。しかし、栄冠を得ようと思うなら、勇ましく闘い、忍耐しなさい。苦勞を忍べないなら、休息する権利もない。闘いをいとうなら、勝利は得られない。》

#### 5 忍耐を求める祈り

《主よ、あなたの恵みをもって、本来なら私にできないことでも、できるようにしてください。私がいかに苦しみに弱く、ささいなさまたげによって、いかに墮ちこんでしまうかをあなたはご存じです。み名の光栄のために、どのような試練をも愛させてください。あなたのために苦しみ、迫害されることは、私の靈魂にとってためになることです。》

### 第二十章 自分の弱さと、この世のみじめさを告白する

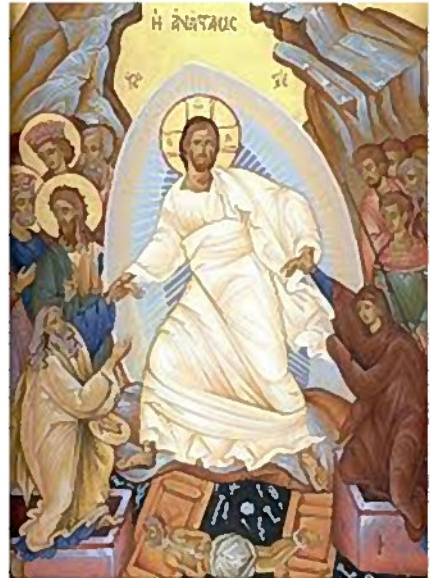
#### 1 子

《「私は罪を告白し、過ちを隠さなかった」(詩編32・5)。主よ、私の弱さを告白します。私は小さなことに落胆し、悲しみます。勇気をもっておこなおうと決心するのですが、わずかな誘いがくると、打ちのめされてしまいます。私にとってほんのささいなことが、大きな誘惑のもととなります。知らず知らずのうちに自分だけは大丈夫と自信にあふれていると、軽いひと吹きだけで倒されてしまうことがあるのです。》

## 主は復活された アレルヤ!

「復活されたキリスト」のうちに  
「いのち」が  
みなぎっていることを信じます

けれども  
さらに深く信じさせてください



死に打ち勝ち「復活されたキリスト」は「いのちの言葉」を

人々に伝える使命を わたしたちひとりひとりにたくされました・・・

今日もまた、わたしたちの平凡な生活の中で。

無駄な人生はありません。無駄な一日もありません。

自分で確認できなくても、「復活されたキリストは」は  
すべての人々と「いのち」を 分かち合いたいのです。\*

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『いのちの道』伊従信子 写真と文 サン・パウロ社

## 創造主への賛美（19）

くのり 彰

「知る」と「悟る」という言葉の相違について述べてきた。幼子の心は、「悟る」の世界に近いと思われる。だが、物心がつく時、知性が働き始める。「(知性の)目が開く」のだが、「心の目」は徐々に閉じていく。自他を、そしていっさいのものを区別し、整理し、分類し、具体性を捨象する抽象の世界に入っていく。故押田成人神父が「コトことば」と「観念ことば」という区別をされていたが、「観念ことば」の世界に入っていくのである。こうして、「知識」が生まれてくるのだが、いっさいのもの、物や人や出来事が、頭で理解されていくこととなる。

先日、昨年9月に亡くなられた女優の樹木希林さんの手紙を偶然目にした。子供のいじめをなくす運動に取り組んでいる人への直筆の手紙である。癌の痛みに耐えながら、3時間かけて書き上げたとのことである。

ひとりひとり 違って 生まれる  
当然、差別がある  
いじめは ちがいから 起きる  
わたしも 人をいじめたし、  
いじめられたし  
それを亡くそうたって——ネエ  
はてしない道のりです

「いじめはいけない、悪いことだ、してはいけない」といった紋切り型の言葉ではなく、より根源的な点を突いている。すなわち、「ひとりひとり、違って生まれる」という事実である。一卵性双生児の場合、外見はよく似ているかもしれないが、異なる人格と身体ゆえに、性格や能力などは、少し違っているはずである。つまり、「わたし」という人間は、人類の歴史において、後にも先にもどこにも存在しないのである。ひとりひとりが個性をもっており、唯一無二の存在なのである。

そこで、AさんもBさんもCさんも…さんも、それぞれが他の人と違うゆえに、区別されるのである。たとえば、Aさんを見ると、とても黒い。Bさんは反対にととても白い。Cさんはどちらでもない。皮膚の色で区別される。区別があって当然なのである。ところが、この区別が差別となる。

樹木希林さんは、「当然、差別がある」と続けているが、「当然」というところが問題なのである。区別が差別になってしまうところ、そこに原罪の問題がかかわっている。

（続く）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (134)

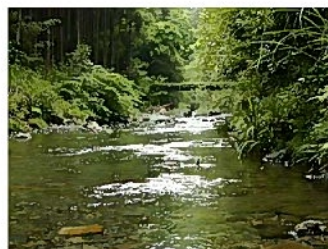
ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(11)

二つの歌の解説には、「エコロジカルな文書のアンソロジー」のようなものを書き始めることができるような一連の推移があります。同時に、叙述された現実から最高の美と調和の中の著者にまで超越するか登っていくことは、十字架のヨハネのような神秘家にとっては、神の体験ばかりでなく、景色や川や山などの体験もなければならぬということに気づかされます。二つのことは一緒になっており、環境のこれらの諸要素を体験することがなければ、名詞と形容詞の言葉遣いの中に、彼の卓越した体験を感じ取ることはできなかつたことでしょう。

ここでは、それを避けることなく、この文書から若干のものを取り出し、エコロジカルなアンソロジーを作りましょう。彼の著作の他の箇所から取られた、太陽に関するいくつかの文書を最後に加えながら。

- (1) 山々：「山々は高く、豊饒で、広大で、美しく、優雅で、花々が咲き乱れ、芳しい香りに満ちている。私にとって、私の愛する人とは、こういう山々である」(同上 6)。
- (2) 谷々：「人気のない谷は静かで、気持ちよく、涼しい木陰に富んでいる。清らかな水が、豊かに流れ、そこに生えている種々のさまざまな植物や、小鳥たちのやさしい歌声で、人々の感覚を魅了し、楽しませる。またその静寂と沈黙によって、すがすがしさといこいとを与える。私の愛する人とは、こういう谷々である」(同上 7)。



## C年 受難の主日（枝の主日）

（ルカ23：1－49） **短い朗読版**

「本当に、この人は正しい人だった」。十字架につけられて、息を引き取られたイエスを見て、ローマの百人隊長は言いました。イエスを十字架につけた兵士たちの長が目覚めたのです。また、見物に集まっていた群衆も皆、胸を打ちながら帰って行きました。胸を打つことは、自分の罪を悔いる動作です。

イエスは十字架につけられる時、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と祈りました。このように祈りながら死んだイエスが、悔い改める人々に罰を下すなどということはありません。イエスは自分が十字架につけられることで、人々がそのように回心することを願って死んでいったのです。まさに、人々を神と和解させるための、いけにえとなられたのです。

イエスは闇の力によって十字架につけられました。イスカリオテのユダの中にサタンが入り（ルカ22・3）、ピラトや祭司長、人々も、その力に負けて、「十字架につけろ」と叫びました。私たちも同様に、この闇の力に負けて罪を犯します。私たちの悪い行いは、光よりも闇の方を好んだ結果です（ヨハネ3・19）。私たちが罪を犯す時も、それはイエスを十字架につけているのと同じなのです。

しかし、イエスはそんな私たちのためにも「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」とお祈りくださいました。そして、命をささげ、十字架についてくださいました。

私たちも、イエスの十字架の姿を仰ぎ、胸を打ち、「本当にこの人は正しい人だった。私こそ罪人です」と悔いるなら、イエスは赦さずにはいないでしょう。また、イエスのこの愛のいけにえを受け取られた天の父も、私たちの回心を喜ばずにはいないでしょう。「死んでいたのに生き返った！」と（ルカ15・32）。

イエスだけが、世の罪を取り除く神の子羊です（ヨハネ1・29）。私たちを罪の絆から解放し、父なる神様との絆に連れ戻してくれた愛のいけにえです。「キリストの十字架、世の救い」。この十字架を仰ぎ見て、その前で罪を悔やみ、世の闇から命の光の中に移っていきましょう。復活祭は来週です。

（今泉健神父）

**（お詫び）** 今回「みことばのひびき 四旬節第5主日」分が担当者の都合により掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます。

## C年 受難の主日（枝の主日）

（ルカ 22：14－23：56）長い朗読版

枝の主日では、人々は「祝福あれ、主の御名によって来る人に！」とイエスを王として迎えました。そのたった5日後に「十字架に付けろ！」と叫びました。これほどまでの人間の弱さの原因の1つは、祈りを怠っていたことです。福音書では、自分を与え尽すイエスの姿を通じて示される神のいつくしみと共に、祈りの大切さが語られています。祈りは、私たちの信仰を強め、神と一致して神のみ旨に従って生きるために必要な恵みを受け入れる開かれた心を与えてくれます。

ペトロは、群衆よりももっと短時間のうちに態度をひょう変させました。ペトロは、イエスのために牢に入っても死んでもよいと宣言した数時間後、イエスを知らないと言った3度も繰り返しました。イエスは、ペトロの弱さが自分の力に頼っているせいだと知っていたため、祈りの大切さを3度強調しました。1度目は、最後の晩餐で「あなたのために、信仰が無くならないように祈った」と語り、2度目は、オリブ山の園で弟子たちに「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言い、3度目は、眠り込んだ弟子たちに「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈ってなさい」と言われました。これは、聖週間を迎える私たちにとっても大事な教えます。イエスが私たちのために祈っておられるので信頼すべきですが、信仰のうちに堅忍できるようにと祈る責任が私たちにもあるのです。今は眠るときではなく、主がなさる全てのことに霊的に注意深く目覚めている時です。

イエスは、いつも私たち皆の祈りの模範です。ご受難では、主は絶え間なく祈られました。イエスは、御父のみ旨と一致するご自分の完全な従順によって、私たちの不従順に打ち勝ちました。余りにも苦い苦しみの杯を取り除いてくださいと祈ったものの、いつも御父のみ旨を謙遜に受け入れました。主の祈り、ひいてはあらゆる祈りの本質は、「私の願いではなく御心のままに」です。イエスは、身が引き裂かれんばかりに全身全霊で自分を捧げて祈り、血の汗がしたたり落ちました。これに対し、御父は御子を力づけるために天使をお遣わしになりました。御父の助けがなければ、イエスは私たちの罪の重さで潰れてしまったかもしれません。しかし、祈りと御父への絶対的な信頼とともに起きあがり、祈りから力をくみ取りつつ「死まで、しかも十字架の死に至るまで」の屈辱的な道のりを歩き抜きました。

この聖なる一週間では、教会と一緒に祈る多くの機会と、毎日の一瞬一瞬の中で、私たちもイエスの祈りに加わり、御父に自分自身を謙虚に捧げて参りましょう。

(Sr. Paulina)

## 復活の主日

(ヨハネ20：1-9)

世界の国々の民よ喜び躍れ、主イエス・キリストは、まことに復活されたアレレヤ。今日の福音の箇所ですが、ヨハネによる福音書の「主のご復活」に関する場面でした。イエスを愛していたマグダラのマリアは、朝早くまだ暗いうちにイエスが葬られている墓へと向かいます。愛するお方が葬られている処に、真っ先に飛んでいったわけですが、そこで目にした光景に驚き、主が取り去られたと考えて、弟子たちに報告に行きます。

墓から石が除けてあるのを見た彼女は、ペトロとイエスが愛しておられたもう1人の弟子のところに行き、その弟子は来て亜麻布が置いてあるのを見、自分は墓に入らず、ペトロが墓の中に入って布が包めてあるのを見、その後もう一人の弟子は墓の中に入り、見て信じることとなります。

これらの「見る」、福音記者がこの「見る」を意識的に使い分けしていると捉える学者は、マグダラのマリアともう1人の弟子の最初の「見る」は身体的に見ただけで、ペトロは時間をかけ観察し、もう1人の弟子の次は、心の目で洞察し信じたと捉えている様です。

私たちが物事を単純に見るのでなく、心の目で見るとき、人は信じる者へ変えられてゆきます。わたしたちもイエスから愛された弟子が、イエスを愛した様にイエスを愛し、主イエス・キリストの復活を心の目で眺め、そして信じる者となり、周りの人々に主の死と復活を告げ知らせて行くものとなります様に。

人となられた神の御独り子、主イエス・キリストは、十字架の上で生命を捧げられ、世の罪を贖って下さいました。私たち一人一人、今、主のご復活の大きな喜びのうちに、歩んでゆくことができます様に。神の恵みと祝福が、皆様の上に豊かにあります様に。

(Fr. 古川利雅)

## 神のいつくしみの主日 (C)

(ヨハネ 20 : 19 - 30)

復活 8 日目の主日は、「その愛はいつまでも続き、そのいつくしみは永遠に続く」主に出会う恵みに満ちた時です。今日のミサの聖書朗読は、イースターの晩 10 人の弟子たちが主に会ったときも、またトマスがその一週間後主に会ったときも同様に恵みのときであったことを告げています。

弟子たちはユダヤ人を恐れて扉に鍵をかけていますが、イエスは自由に入ってきて来ます。トマスは鍵をかけた扉ではなく、閉ざされた心の後ろに隠れます。「自分の方を見て、自分の手で触れてみるができなければ、私は信じない」と言いません。高慢な心による疑いの言葉です。たぶんトマスは、イエスといっしょに死ぬとまで言ったのにあまりに容易に主を見捨てたことを恥じています (ヨハネ 11 : 16)。たぶん、トマスも彼の友人たちも、イエスに従うために全てを捨てました、そして今、トマスは失望しています。

トマスの疑いの根は何であれ、彼の心の扉はしっかり閉ざされています。しかし、彼は使徒たちとの交わりを離れていません。トマスは全ての希望を棄てたわけではなく、トマスを信じる友人たちは彼を拒んでいません。トマスを信じることはできなかったかもしれませんが、トマスのために祈っていたことは確かです。8 日後に、トマスが彼らといっしょに部屋にいたとき、イエスが再び現れます。中風の友だちをイエスのところに運んできた (マルコ 2 : 3 - 5) ように、使徒たちの信仰は霊的に中風のトマスが主に出会う道を開きます。彼らは、私たちがどうしたら主のいつくしみの道具になれるかを示しています。

トマスがイエスを見ると、彼の疑いは「わたしの主、わたしの神よ」という美しい信仰の言葉に変わります。トマスはイエスが生きているのを見ます、彼は信仰によってイエスが神であることを見ます。見ることはトマスが頂いた特別な恵みです。彼は見たから信じました。しかし見る事が重要なものではありません。本質的なことは信じることです。「見ないのに信じる人は幸いである」。主はわたしたちが頂く祝福について語っています。私たちは主を見ていませんが、信じています。何を私たちは信じているのでしょうか？ 私たちは、イエスが「始めであり、終わりであり、生きているお方である」ことを信じます。イエスは死にましたが、今や永遠に生きています。彼は「死と地獄の世界の鍵を握っています。」

神のいつくしみの主日に、私たちは自分の罪と恐れを知り、より深く主のいつくしみを知ってイエスのところに来ます。イエスは私たちを咎めるためではなく救うために来られるのです。恐れによって心の扉を閉め、主から隠れようとしますが、信仰によってしっかり大声で叫びます。「イエスよ、私はあなたを信じます！ イエス、私の主、私の神よ」

(Sr. Paulina)

# いのちの言葉 4月

主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

(ヨハネによる福音書 13・14)

使徒ヨハネは福音書の中で、死を目前にしたイエスが、弟子たちと最後の数時間を共に過ごした際に、彼らの足を洗った場面を鮮明に描いています。

砂漠の国、中東においては、遠方から埃っぽい道を旅してきた客の労をねぎらい、温かくもてなすために、しもべに足を洗わせるのが古来からの慣わしでした。

そのため、弟子たちは師であるイエスに断じてそのような行為をさせたくはありませんでした。でもイエスはこう言われます。

**主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。**

このイエスの示唆に富んだ行いを記すことで、ヨハネはイエスの使命全体を浮き彫りにしています。つまり、主であり師であるイエスが「この地上の男性、女性、一人ひとりと出会うために、そしてすべての人に仕え、すべての人を御父のもとに導くために、人類の歴史の中に入ってこられた」という事実です。

地上での生涯において、イエスはご自分の偉大さを示そうとはなさいませんでした。むしろイエスは、最後の瞬間に弟子たちの足を洗いながら、やがて訪れる「十字架上でいのちを与える時」の準備をしておられたのです。そして、その時ご自分が最も大切とする次の言葉を遺言として弟子たちにお与えになりました。

**主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。**

このみ言葉は、はっきりと分かりやすく私たち皆を招いています。たとえ、どのような社会や文化的背景の中でも、すぐに実行できるでしょう。

また、イエスの生き方と言葉を通して、神の愛の啓示を受けたキリスト者は、他の人たちに「借り」があると云えます。それは、兄弟たちを迎え入れ、仕えることでイエスに倣い、自らも神の愛を伝える者となるよう招かれているからです。イエスがなさったように、まず具体的に愛の行いを生き、希望の言葉、友情の言葉を伝えましょう。

また、困窮する人たちに心を向け、無償の愛で接し、権力や特権を持つ人たちにおもねることなく生きることも、私たちの証しとなるでしょう。

時には途方にくれるような、複雑な問題、悲劇的な状況に直面しても、社会の「善」に貢献するために、できること、すべきことは何かあるでしょう。何も見返りを期待せず、広い心で、責任ある行動をとるよう努めましょう。

また、個人的に愛の行いを生きるだけでなく、相互の愛を土台とした神の民として、神の愛を証しする共同体を築いていくよう、イエスは私たちに求めておられます。

**主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。**

この後、イエスは続けて言われました。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。(中略) このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。」<sup>1</sup>

この福音のみ言葉について、キアラ・ルービックはこう書いています。

『(あなたがたは) 幸いである...』。皆が驚くような行動で、イエスが自ら教えた相互愛。仕え合うこと。これは、イエスが教えたいくつもの『幸い』の一つです。(中略)

このみ言葉を、今月はどのように生きればよいでしょうか？

『わたしがしたとおりに』というイエスの求めは、文字通り足を洗い合うことにあるわけではありません。当然ながら、この場面自体が他に類のない、光に満ちた模範であることは確かです。でもイエスに倣うとは、私たちキリスト者の存在意義が、他の人の『ために』生きるとき初めて生まれるのだと、理解することではないでしょうか。私たちは兄弟姉妹に仕えるために存在し、これを人生の基盤として一生を送るなら、イエスが最も大切にされていること、福音の最大のメッセージを理解することになるでしょう。そして本当の『幸い』を得ることになるでしょう。」<sup>2</sup>

レディツィア・マグリ

---

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

---

<sup>1</sup> ヨハネ 13・15-17 参照

<sup>2</sup> キアラ・ルービック 1982年4月『いのちの言葉』『Parole di Vita (いのちの言葉)』(ファビオ・チャルディ編著、キアラ・ルービック集5巻、チッタノーバ出版社、ローマ2017年) P233, 235より

胸の内にもやもやとあるこの感慨をどのようにして収めようかと、このところ私は落ち着きなくうろうろとしています。

当誌に拙い幼稚な一文を寄稿してとんでもない年月を重ねています。厚顔無恥と言って済まされるような時期もとつくに過ぎました。申し訳ないと思いつつ係りの方につぶやいたりもするのですが、どうしてよいかわからずに時が経ってしまっていて、お許しを願うしかないのですが。

実は、私はIT機器のことは全く全然知りません。皆目無知です。今の時勢にくみするための、自分の範囲ですべきことの最小限を教えてください、何とか習得して、それだけしかできない状況で毎月原稿を送付しています。当初はパソコンから原稿を送ることもできずに、長いこと紙の原稿を封書で届けていました。「送信」できるようになった時、「助かりま〜す！」と係りの方を助けてしまって、ほんとうに申し訳ないことでした。ついでに告白すればこれまでに何やかやと機器扱いの無能のためのご迷惑は数知れません。

その上に機器の扱いもさることながら、文章を作成するというのも私は鉛筆で紙に書きつけることでしかできないことでした。たったこれしきの文章に何をというところですが、鉛筆を握りしめてノートに必死に向かい書き連ね書き直し、朱を入れるどころか青も緑も入れ挙句には紙を張り付けて書き足したりして、右手の親指は少し形が変わり痛みましたが、とにかくパソコンの画面上では文章は作れなかったのです。頭と心と指が連動しないのです。

やっとのことでノートに形を整えて、私は初めてパソコンの画面を立ち上げて、そのノートを見ながら画面に清書して送信しました。

近年作家の方々がワープロやパソコンで小説や詩を創作されることは、ほんとうに今もって私には理解不能の驚きであるのです。

ところが、なのです。

この一年ぐらいのことでしょうか、私の身に変化が生じてきました。言ってしまうとノートとパソコンの割合が、これまでは9.5対0.5だったのがなぜか徐々にノートの割合が少なくなり、現在もしかしたら6.5対3.5位までになってしまったのではないかと思われるのです。私としては今風に言えばヤバイというのでしょうか、愕然とする出来事といえるのです。

ノートの使用量も鉛筆の使用量も格段に減りました。びっくりします。



たしかにノートからパソコンの画面に書き写しながら、手直しすることに徐々に慣れてきて、画面を見つめる時間や取り組むことが意識しない間に多くなってきていたのかもしれませんが。

しかし、ひとつ気になることがあります。

どういったらよいのでしょうか。紙に鉛筆の時の、稚拙は稚拙なりの無様な渾身というのでしょうか、勢いというか執念ともいうべきものが思いなしが影をひそめるかに感じられているのですが、これは気のせいか或いは他の要因なのでしょうか。

新聞で見て深く心にとめたものがありました。

ひとつは、生物学者福岡伸一氏のコラムにあったのですが、コンピューターやスマホの画面の文字は止まっているようで実は絶えず動いている、いつも細かく震えている。脳に不要な緊張を強いているのではないか。自分は紙に印刷されたものの方が安心して読めるし頭によく入る。というもの。

もうひとつ、書家の石川九楊氏は原稿は必ず鉛筆手書き。活字やフォントは文字ではないと言い、パソコンの普及で縦書きが廃れるのを憂慮している。漢字やひらがなは横書きには無理がある。縦書きを失うと日本人の思考にもどこちなさが生じる。というもの。

読みながらおこがましくもいろいろ同感して安心したことでしたが、しかし思ってみれば些細な私自身にあっても、抵抗にもかかわらずことは確実に変化して侵されていて、現に今、この文章もパソコン画面で見つめつつやはり内心忸怩たる思いはぬぐいきれないというところです。

さまざまな技術の進歩で、いつの日か人類はこれまでとは違う新しい人類へと進化していくのではないかなどといわれています。電灯が灯るとか電車が動く冷蔵庫ができたという段階とは大きく違うことであるのでしょうか。科学だけでなく哲学、文学などあらゆる分野で大きなテーマとなっているようですが、100年200年1000年後の新人類の世界をみることはかなわないとしても、今の私は手紙は縦書き手書きで書きたいし、小説も詩も縦書きで読みたいし、聖書はどんなに文字が小さくとも絶対に縦書き二段組に限ります。

今もおられ、前にもおられ、後にもおられるかた、万物の支配者、

——— 主イエズス きてください

(上野毛教会信徒)

## 糸巻き棒からペンへ(41)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女はそこで（訳注：修道院で）とてもくつろぐことができたので、以前の活動を懐かしむことはありませんでした。「以前、自分の楽しみや身を飾ることに用いていた時間に、時折、掃除に行くようなことがありました」（『自叙伝』4・2）。

この若い修道女は、熱心に修道生活の実践に専念しました。頻繁に告解し、歌隊所で祈り、他の修道女たちに奉仕し、卑しい仕事につき、断食や苦行を行ないました。最後の分野では、彼女を、節度ある道によって導く人はだれもいませんでした。彼女の熱意は、常軌を逸した極端——後に彼女は、著作の中で、この種の極端を非難しています——へと導きました。ある証人はこう言っています。「健康をそこなうほどの激しい異常な苦行がありました」。実際、この行き過ぎは、彼女をもう少しで殺すところでした。「失神が数多くなり始め、一度など、人を恐れさせるほど非常に激しい心臓の発作が起きました。その上に、他のいろいろの病気が加わりました。…それらの病気はしばしば私の感覚を奪ってしまいました」（同 4・4）。周知の通り、ベセダスの民間療法師の治療はほとんど彼女を殺すところでしたが、後に、聖ヨセフの取り次ぎによって健康を回復したのです。

ご託身修道院では、次のようなことに身を捧げて、27年間、聖女は過ごしました。共同の祈りや霊的読書、自分の祈禱所での個人的祈りや病気の修道女たちの世話、面会室で話し相手となった無数の人々への配慮や小さな妹の世話（この妹は父親の死から結婚するまでの10年間、聖女と修室を共にし、後には二人の親類が同じことを行ないました）。その時代の証人は、テレサ姉妹の寛大さと憐れみ深さについて、また彼女の親愛の情や気さくな振る舞いについて語っています。多くの人々は、彼女を模範的修道女と見なしていました。しかしながら、彼女自身は、満足してはおらず、心は分裂していました。「一方で、神が私を呼びたもうとすれば、他方で私は世間に従っておりました。神に関するすべてのことが私に大きな慰めをもたらす一方、世間のことが、私をとりこにしていました。私は……これら二つの反対のものを、一致させようとしていたかのようです」（同 7・17）。

（続く）

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2019年3月4日

## ボリビアのゴンザロ・デル・カスティジョ・クレスポ司教, OCD 帰天



彼は、1936年9月20日、ボリビアのラ・パス生まれ、1957年2月10日に跣足カルメル修道会に初誓願を宣立し、イエズス・マリアのゴンザロという修道名を受けました。1963年10月21日に司祭に叙階され、そして1985年1月7日に司教に叙階されました。

2000年から彼は、ボリビア軍の付司教の職につきました。最近はその名誉司教として、ラ・パスのカルメル山の聖母小教区の跣足カルメル修道会の共同体に居住していました。

彼は昨年から数か月間病気に伏し、今年1月14日に昏睡状態に陥り、二三時間後そのまま亡くなりました。

ゴンザロ司教は、長年にわたる軍隊や移民や難民との親しい関わりで著名でした。彼の死は、ボリビア司教団や政治当局や軍隊の幹部に大きな悲しみをもたらし、ボリビアの跣足カルメル修道会に哀悼の意が沢山寄せられました。

彼の葬儀ミサは、今年1月16日に、トリビオ・P・ティコナ枢機卿の司式で捧げられ、多くの司教たちが共同司式をいたしました。跣足カルメル修道会イベリア管区長のミゲル・マルケス神父からは弔電が送られ、地区長代理カルロス・メディナ神父は、ゴンザロ司教の人柄と霊的な側面を回想しつつ弔辞を述べました。

ゴンザロ司教の永遠の安らぎをお祈り致します。

# カルメル誌 新刊案内



2019年 春号 No.372

《祈りを学びたい人のために》

信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(5)  
—祈りを始めるために(1)「知ること」と「祈ること」  
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(1)「夜も昼も切に」  
—テサロニケの教会への手紙 I 田畑邦治  
現代社会において

祈りの人となるには(1) 九里 彰

風に吹かれて(19)—変わるもの、変わらないもの  
原 造

現代に響くルルドの靈性(IV)  
—ひとりひとりが出会う聖母マリア  
須沢かおり

キリストに伴われて季節を巡る(5) 伊従信子  
僕の通学路には象がいる 森 みさ  
カルメル会の会則に見る

アシェーシスと修道生活(5) 九里 彰  
靈性研究會議義録(4)—歴史のキリスト、存在のキリスト、  
愛のキリストについて 奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」  
—『ラウダート・シ』を生きる—

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」  
吉川まみ

長く見落とされてきた  
「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト  
大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で  
—『ラウダート・シ』の靈性  
中川博道

諸宗教対話の立場からひと言  
フランコ・ソットコルノラ

自然とカルメルの靈性  
—十字架の聖ヨハネを中心にして  
九里 彰

## ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会  
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記  
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬  
+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

# 書籍案内



## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 修道院の風

宇治カルメル会修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかつた、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

女子パウロ会  
新刊案内

5月10日発行



B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税  
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

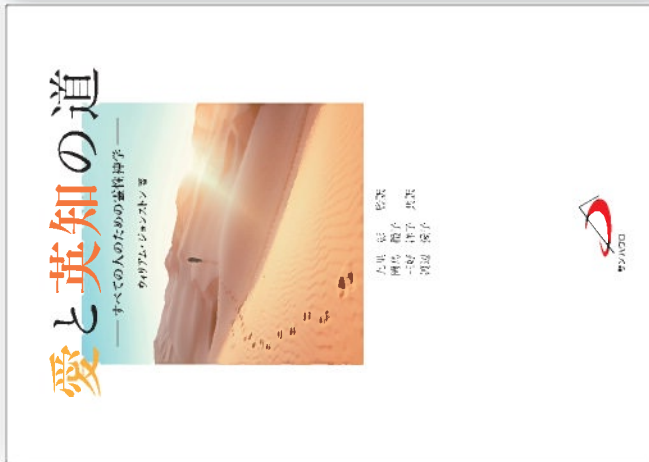
# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

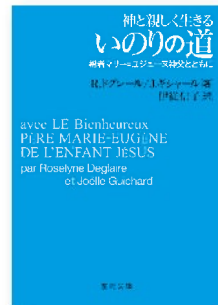
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

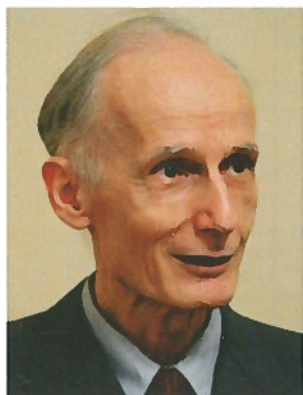
定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340





# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 — 宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 — 聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い — キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切るの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.28hisen.co.jp>



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 上野毛 霊性センター(東京) (2019年～2020年3月)

### 黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院(黙想)\*\*

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】 4月18日(木)夕食～21日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

5月11日(土)～12日(日)

7月20日(土)～21日(日)

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

5月25日～26日 2020年

7月6日～7日 1月18日～19日

11月9日～10日 3月14日～15日

日帰り黙想会 (13時30分～16時) 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように……。

4月11日(木) 4月26日(金) 5月 9日(木) 5月31日(金)

6月13日(木) 6月28日(金) 7月11日(木) 7月26日(金) 9月12日(金)

10月31日(木) 11月14日(木) 11月29日(金) 12月13日(金)

2020年

1月 9日(木) 1月31日(金) 2月27日(木) 3月12日(木) 3月27日(金)

\*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) 福田正範 神父

8月1日(木)～10日(土) 10月10日(木)～19日(土)

8月16日(金)～25日(日) 12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士  
4月27日(土)～29日(月)

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士  
11月22日(金)～11月24日(日)

特別黙想会(初日20時～翌日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
11月15日(金)～11月17日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

# 《カルメル会》

## 四旬節講話シリーズ

### 家庭の危機 教会の危機

～『愛のよろこび』に光を求めて～



日 時：下記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）

3月10日（日）： 九里 彰神父（カルメル修道会）

「神の愛の共同体 ——家庭の霊性とカルメル」

3月17日（日）： 小林 由加氏（カトリック学校教員）

「いっしょにいのちを育みたいなあ ——家庭と教育の現場から」

3月24日（日）： 田畑 邦治氏（白百合女子大学学長）

「創り創られるもの ——結婚・家庭の自然と恩寵」

3月31日（日）： 松田 浩一神父（カルメル修道会）

「キリスト信者の結婚と家庭 ——霊的・司牧的同伴からの一考察」

4月7日（日）： 大瀬 高司神父（カルメル修道会）

「聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す ——危機を好機に」

場 所：カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会

（TEL:03-3704-2171）

# 一泊黙想会

4月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

指導： 志村 武神父

会費： ¥6500

日時： 2019年 4月25日（土）～26日（日） 16時開始、翌日16時まで

7月 6日（土）～ 7日（日） //

11月 6日（土）～ 7日（日） //

2020年 1月 16日（土）～18日（日） //

3月14日（土）～15日（日） //

## \*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



# \*\*\*\*\* 日帰り黙想会 \*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



\*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

\*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp



# カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 4月6日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など  
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)  
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。  
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17  
FAX 052-681-6445  
E-mail [hibino@carmel.or.jp](mailto:hibino@carmel.or.jp)

## 今後のスケジュール

5月4日 (土)、6月1日 (土)、7月6日 (土)、<8月はお休み>、  
9月7日 (土)、10月5日 (土)、11月2日 (土)、12月7日 (土)。

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイリー神父・古川神父)



## 宇治カルメル会 黙想会案内

### 【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

- 6月1日(土)～2日(日) イエスと出会い直す 中川博道神父  
7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父  
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

### 【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

- 6月8日(土) 中川博道神父 11月16日(土) 九里彰神父  
9月7日(土) 九里彰神父

### 【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

- 4月17日(水) 復活のイエスをさがして 中川博道神父  
5月15日(水) 「だれが一番偉いか？」 九里彰神父  
10月30日(水) かそけきもの Br.原造  
11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ  
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

### 【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）

- 5月18日(土) ”我”に立ち返る時 中川博道神父  
6月29日(土) ゴールは近い Br.原造  
7月27日(土) 「私は復活であり、命である」 九里彰神父  
9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ  
10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父

### 【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

- 9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父  
10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父  
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

### 【ゴールデンウィーク黙想会】（午後5時～午前9時）

- 4月28日(日)～5月5日(日) イエスとともに生きる基盤を探す 中川博道神父

### 【待降節の黙想】（午後5時～午後4時）

- 12月7日(土)～8日(日) 「メシアのしるし」 九里彰神父

**【奉献生活者の黙想】**（午後5時～午前9時）

5月23日（木）～6月1日（土） 九里彰神父

8月5日（月）～14日（水） 中川博道神父

8月19日（月）～28日（水） 九里彰神父

11月6日（水）～15日（金） 中川博道神父

12月27日（金）～1月5日（日） 中川博道神父

**祭日のミサに参加するために**

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30（講話なし 各食事つき）

**【聖週間を祈る】**

4月18日（木）～21日（日）

聖木曜日から復活祭まで またどの曜日からでも参加可能です

**【クリスマス】**

12月24日（火）～12月25日（水）

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

# 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
慈しみ深き会  
詩編の会  
レデンプトリスチン鎌倉修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

「祈り」：神秘体験  
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)  
個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）  
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）  
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）  
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）  
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）  
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）  
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）  
8月 休み  
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）  
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）  
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）  
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、  
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

# 講話と祈りのつどい

【2019年4月13日(土)】

## 四旬節三二静修



枝の主目の前の土曜目です。聖書を読みながら、  
ご復活を迎える準備をあらた  
にしましょう。

講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.co](mailto:notredamedevie.japan@gmail.co)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
リピーターの会 @那須	4/27(土)17:30- 4/30(火)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町大字豊原)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp 同上
ダイアリー	5/2(木)17:30- 6(月)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母聖霊修道院 (練馬区上石神井)	同上
サダナ I	5/23(木)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田修道院 (町田市)	同上
沖縄サダナ I & アドバンス	5/30(木)17:30- 6/2(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	愛楽園教会 (名護市済井出)	宮城(みやぎ) 鈴代 Tel 090-4471-6456 suzuyo.t.m@gmail.com
入門 C	6/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4日	6/15(土)10:00- 16(日)16:00 6/22(土)10:00- 23(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会 上野毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナ I (入門A.B.C)

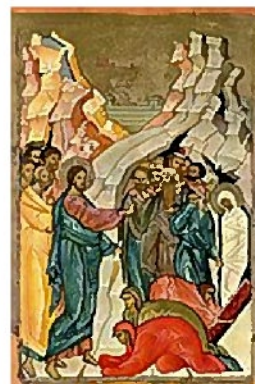
体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

### ◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または 入門 B を終えた方。





## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月 5日(日)～ 5月 13日(月)
- ② 8月 14日(水)～ 8月 22日(木)
- ③ 10月 6日(日)～ 10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年 1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 1日(金)～2月 3日(日)
- ② 2月 22日(金)～2月 24日(日)
- ③ 3月 15日(金)～3月 17日(日)
- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年 5月 30日(木) 夕食～ 6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師(SJ)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて

郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00



くのり

指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念禱してゆきましょう。

~~1月24日—まことの家族とは— 終了~~

~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」—(ルカ8・21)—~~

~~3月21日—祈りと祈りの場— 終了~~

~~「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」—(ルカ19・46)—~~

5月16日 人間の傲慢

「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）

7月25日 神の愛と隣人愛

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）

12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）

「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

## 《復活節第三水曜日の典礼》

日時：2019年5月8日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

14時 歌唱ミサ

ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

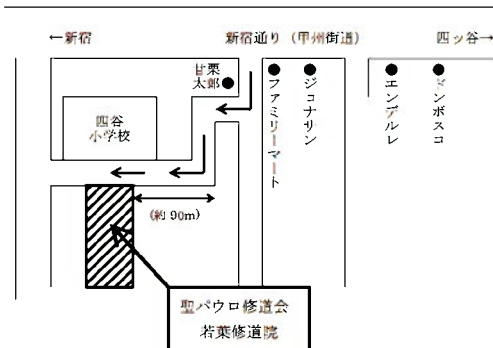
司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

\*上履きをご持参ください

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



### ＜道順＞

四ツ谷駅より


サンパウロ→ドンボスコ→  
ファミリーマートを左折  
甘栗太郎を右折  
道なり後左折→道なり後右折  
約90m直進  
四谷小学校の正面

## 主催：「詩編の会」

「わたしの父の意志は、子を見て信じる者が永遠のいのちを保ち、  
終わりの日に復活することである。」（当日のアレレヤ唱参照）

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131（藤井）

e-mail: shihennokai@gmail.com



**午後の静修**〈講話・念禱・ミサ〉へのおさそい

《イエスを生きる起点》

—ペトロとパウロ—

**日 時**：2019年6月29日(土)

12時～16時(受付11時半)

**指 導**：中川博道神父 (カルメル修道会)

**対 象**：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

**要申込**：住所・氏名・電話番号・所属教会  
をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切(4月4日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

**場 所**：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

**主催**：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



# 召命黙想会

日 時：2019年4月27日（土）9:30～16:00

開催地：レデンプトリスチン鎌倉修道院

（観想修道院）

指導司祭：ジャン・レイモンド・ジラルド 神父

（レデンプトール修道会）

対 象：カトリック女性信徒で奉献生活を望んでいる  
25歳以上（年齢相談）の独身の方

参加費：1,000円（昼食代）

申込み：住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を  
記入の上、往復葉書でお申込みください。



〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町3-10-6

レデンプトリスチン鎌倉修道院

Tel. 0467-22-3020

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）  
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
《変わりました》 [reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

### 「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、  
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し  
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局  
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

## 編集後記

先日、世界宗教者平和会議（WCRP）の講座に参加して来た。すでに40年の歴史があり、宗教者が集い、平和な世界の構築を模索している。

当日は、聖公会、立正佼成会、ローマ・カトリック、天理教、イスラム教の各宗教各宗派を代表する方々が発言され、とても啓発された。

印象に残った言葉はたくさんあるのだが、立正佼成会の次代会長が、次のような発言をされていた。「NHKの番組で、聖公会首座主教の『謝罪を生きる』の言葉を伺い、とても感銘を受けた。政治的次元では謝罪は一回ですむのかもしれないが、宗教者としては生涯これを生き続ける必要があるのではないか。以前、フィリピンに行ったとき、バターン・デイという日があり、そこで旧日本軍の残虐行為を知った。日本人としてというより、何よりも人間として心がとても痛んだ。とても傷ついた。しかし私の息子たちにも（四人のお子さんの母親）傷ついてほしいと思った」。一人の人間としての痛み、悲しみに対する共感がないならば、謝罪は表面的なものにとどまるだろう。

質疑応答の最後の方で、会場から87歳の男性が戦争体験を語っておられた。「火の海をさまよいながら、私の内に湧き上がったのは、激しい怒りでした。『大人はなぜこんなことをするのか。大人はなぜこんなことをするのか』と」。私たちは日々の仕事や務めを果たしていくだけで精一杯であり、自分のことだけに埋没しがちである。周りの人々、アジアや世界の人々の痛み、悲しみを共にしていくことが求められているのではないか。 (P. 九里)



男子跣足カルメル修道会のホームページ

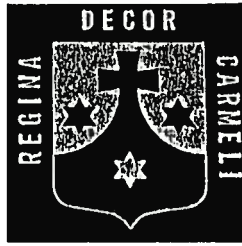
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ  
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **4月26日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456